

令和7年度 事業計画(案)

昨年は、コロナ禍の収束状況とその後の観光需要の回復が不透明な状況を見極めていたところ、令和6年1月に能登半島地震の発災・影響を受ける中、待望の北陸新幹線敦賀延伸・加賀温泉駅開業を迎えました。また、復興施策である北陸応援割キャンペーンや北陸DC等の効果が見られた中、国内の観光情勢が大きく変貌する中、山代温泉の観光振興にむけた取組みも大きく見直す過渡期を迎えております。

令和7年度は、僧行基・ヤタガラス 山代開湯伝説により、開湯以来1300年を迎えます。この節目に際し、令和4年に策定した「山代温泉中期ビジョン計画 2023-2030」の具現化に向け、引き続き、オール山代体制で臨む流れで、次の節目に向け、「人づくり(学び、環境、経験)」、「街づくり(共生)」、「文化の継承(磨き上げ)」、「プロモーション(宣伝)」、「組織・体制の強化(1 チームづくり)」を推し進めます。

又、本年は湯の曲輪地区に隣する萬松園地区(約2万坪)に「萬松園 あいうえおの杜」が竣工します。永らく、街なかの賑わいと自然のマッチングは山代にはありませんでしたが、それに加え、温泉、文化歴史を介した、更に深化した温泉文化を醸成し、滞在時間の増長、高付加価値化を目指すと共に、石川県の観光振興地域づくりの主要な推進役の一つとして、能登の創造的復興を支え、北陸新幹線効果をより確実なものに仕上げ、次の100年後のスタートの第1歩を踏み出す年にしたいと考えております。

尚、新たな事業推進については、マーケティング調査分析に裏付けされた、より効果的な施策による事業展開を図ってまいります。

1 組織

(1) 会員数 150会員(団体含む)

(2) 役員数(構成)

会 長 1名、副会長 3名、専務理事 1名、
理 事 17名、監 事 3名 計25名(兼務1)

(3) 正副部長会

会 長 1名、副会長 3名、専務理事 1名、
担当部長 2名、担当副部長 5名 計12名(兼務1)

(4) 事務局組織

会長 —— 副会長 —— 事務局長 —— 局員 4 名(旅館協同組合職員兼務)
専務理事
2 事業部長

(5) 諸会議 通常(会員)総会 年1回(臨時総会については必要に応じ開催。)

拡大正副部長会(理事会) 年2～3 回開催

正副部長会(執行部会) 毎月開催(及び必要に応じ開催。)

事業部会 各種事業毎に開催

(①プロモーション事業部会・②コンテンツ事業部会)

※ 必要に応じ、委員会を設ける場合もある。

2 総務部 関係事項

「山代温泉中期ビジョン計画 2023-2030」の更なる具現化を目指すと共に、開湯 1300 年実行委員会(5つの専門委員会)が実施する諸事業の効果を最大限に発揮し、お客様が目指して来たくなる魅力のあるまちづくりに、引き続き、オール山代で取り組み、推進します。

開湯1300年について

2025年、令和7年は偕行基・ヤタガラスの開湯伝説の西暦725年より1300年という節目の年となります。この長きに渡る温泉の営みに思いをはせ、感謝し、更なる100年後の山代の深化した温泉文化を醸成し、世界に通じる温泉地を目指す。本年は、大阪関西万博の開催、8月末には「萬松園 あいうえおの杜」がオープンする年でもあって、山代温泉中期ビジョン2023-2030の基本コンセプトである「山代ならではの価値を見つめなおし 磨きなおし 魅力をつける」、継続性のある取組を行う。

中期ビジョンの具現化については、地元住民はじめ、各種団体、観光関係施設、商店（街）などのオール山代体制で臨み流れての展開に努め、山代ならではの良さ（強み）の再認識と次の世代に繋がる更なる魅力創造のスタートの年とする。

(※ R7年4月以降の実施分)

区分	担当部署・委員会名/実施テーマ	主な実施事業
A	ひとつくり（学び、環境、経験）委員会	■ やましろ街事典2025 発行（再編集、デジタル化事業）
	① 山代温泉の歴史文化の教育/コミュニケーション	■ "ウェルカム山代"の開催
	② ネットワーク強化（若者、宗所者、外部有識者）	■ "山代若者VOICE"等の実施検討。（世代を超えたネットワークの構築）
B	街づくり（共生）委員会	■ 地産を消費地を促進し、住民も観光客も「街がよくなる」の街づくり取組を目指す。
	① 飲食・買物・宿泊の連携	■ 開湯1300年を記念した街中賑わい創出イベントの実施（6商店街） ・ 8/24（女生水）、9/1（萬松園・北大通り）、9/7（待楽ヶ丘）、9/27・28（温泉通り・あけぼの）
	② 景観・散策向上 / ③ 空き家の再生・活用	■ 「あいうえお」をテーマにした特産品開発支援 ■ 通り界隈の景観向上、散策促進策の検討
C	文化の継承（磨き上げ）委員会	■ 山代温泉の魅力を磨き上げ、住民には「自愛とお礼」を、観光客には「魅力と裏日常」を提供します。
	① 製湯古伝湯 / ② 明堂上人とあいうえお	■ 温泉の原風景の付加価値化推進、萬松園 あいうえおの杜と一体となった散策路の活用
	③ 九谷焼と雪山人	■ 九谷焼の郷の標榜
D	④ 祭り / ⑤ 名物/名所	■ 伝統に支えられた祭事の活性化、山代を知る取組み推進、名所旧跡の利活用
	プロモーション（宣伝）委員会	■ 開湯1300年を機に山代温泉の魅力を外域に広く深く認知させます。
	① クリエイティブ / ② メディア	■ 開湯1300年の告知ツール製作、設置 ■ 次はあなたのプロジェクト推進事業 ・ インナーキャンペーン展開、お迎えする気持ちの醸成
E	組織・体制の強化（1チーム作り）委員会	■ 思われた資源や目的を達成するため、共通の地図とコンパスを持ち、ワンチームで推進出来る体制づくりを目指します。
	① マーケティング戦略 / ② MVV	■ 認識、意識調査の実施
	③ 既存組織再構築（エコシステム）	■ MVV（mission, vision, value）の作成・周知 1301年以降の山代温泉の目指すものを検討 ■ 山代愛のもと、役割分担し、本来の目的にオール山代で向かう土壌づくりを目指す
F	協会2事業部及び関係部局等との連携	■ 以下の取組と事業と連携し、相乗効果を高めます。
	○ 開湯1300年記念宿泊プランの達成	■ しあわせを添えて「1,300円 商品券」の発行（5月GW明け～7/13） ・ 終了後、街中で過ごす各種クーポン発行を目指す。
	○ あいうえおをテーマにした取組み	■ あいうえお護摩札（木製）事業（4月下旬よりスタート） ・ 萬松園内に加え、街中散策を促す取組み ■ あいうえおの郷（山代温泉地内）紹介ビデオの製作 ・ あいうえお学舎2階ギャラリー等で放映 ■ 学舎2階ギャラリー展示コーナーの掲示物等の整備促進 ・ 山代年表、山代線図、山代散策MAP、ギャラリーあいつ文・紹介パネル等の制作 ・ 関係書籍のリスト化、購入計画立案 ■ 開園記念イベントの実施 ・ 実施日（要） 8/30（土）11時頃～夕方 / 8/31（日）10時～15時 ■ 「杜」園地内記念植樹 ・ （冬）桜（年2回開花するものを検討中）の植樹計画立案 ・ タラヨウ（1本～数本） ■ 記念に残る構築物（レガシー的なもの）の制作検討（提案） ・ 参加者の手形を杜園地内の設置する 等 ・ （エンジン01）実施日 9/5（金）・6（土）・7（日）
	○ 萬松園 あいうえおの杜「開園」に伴うイベント実施 ※開園式（8/30 午前10時～11時）	
	○ エンジン01 in 加賀温泉 受入れ事業 ※初日：オープニング（シンポジウム・コンサート） 2日目：一般講座（伝説を基にした温泉講座）、夜演 3日目：まちなか講座（文芸的講座）、クローゼット ※各種プレゼント（景観、景観をテーマに）	
	○ フォーモンKAGA 受入れ事業	■ 滞在期間のアート活動見学、パフォーマンス、展示会等の実施 ・ （前半）シンポジウムを実施（マスコミ活用による情報発信） ・ （ファイナルとして）アートマーケット（9/27・28）との連携、展示会開催 ・ 杜（屋外）に（半永久的に）設置する構築物の受入

◆国土交通省・観光庁

□「観光立国推進基本計画」(R5年3月閣議決定)における、観光立国の持続可能な形での復活に向け、観光の質的向上を象徴する「持続可能な観光」「消費額拡大」「地方誘客促進」の3つをキーワードに、持続可能な観光地域づくり、インバウンド回復、国内交流拡大の3つの戦略に取り組むことに注視し、連携促進を図り、有効的な事業展開を目指す。

＜令和7年迄の目標値＞

- 1.持続可能な観光地域づくりに取り組む地域数を100地域に(R4年12地域から)
- 2.訪日外国人旅行消費額を5兆円に(R4年4.8兆円から)
- 3.訪日外国人旅行消費額単価を20万円 R4年15.9万円から)
- 4.訪日外国人旅行者一人当たり地方部宿泊数を2泊に(R4年1.4泊から)

※地方部とは、三大都市圏(埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県)以外の地域。

- 5.訪日外国人旅行者数を令和元年水準超えに(3,188万人から)
- 6.日本人の海外旅行者数 々 (2,008万人から)
- 7.日本人の地方部※延べ宿泊者数を3.2億人泊に(R4年3.0億人泊)
- 8.国内旅行消費額を22兆円に(R4年21.9兆円から)

□観光庁等支援制度の活用(検討、応募申請対応)

▼ 地域観光魅力向上事業の応募対応

- ①「閑散期に高付加価値コンテンツで山代温泉ならではの魅力向上！」
- ②「山代おしゃれ郷」
- ③地方部における観光コンテンツ充実の為にローカルガイド人材の持続的確保育成事業
他

◆関係団体との連携

北陸広域観光推進協議会、北陸観光協会、石川県((公団)石川県観光連盟)、加賀地域連携推進会議(オール加賀会議)、小松空港協議会、小松空港国際化推進協議会、加賀市((一社)加賀市観光交流機構)、加賀温泉郷協議会、(株)まちづくり加賀はじめ、町内各種団体との連携強化を図り、広域周遊観光、「北陸路のハブ温泉」の更なる振興を目指し、魅力ある観光圏の形成促進を通じ、山代温泉の魅力・個性の深化を進める。

観光客が安心して快適に過ごせる環境を整備し、地域住民との交流を深め、町を挙げて観光振興に取り組むことを目指していきます。ユニバーサルデザインの導入や、地域の魅力を発信するイベントの開催、そして、観光客と住民が共に楽しめるような交流プログラムの実施などを通して、より多くの人々が加賀市山代温泉の魅力を発見し、地域活性化につなげていきます。

□石川県・北陸三県エリアの各機関との連携(重点主要施策の概要)

県が策定した「北陸新幹線県内全線開業にむけたアクションプラン」(2019年3月策定)の2025年度の目標値をクリアし、今後の石川の観光展望を引き続き、図る。本県にとって「北陸新幹線県内全線開業」は、「第二の開業」であり、単なる交通手段の一延伸に止まらず、「南加賀地域をはじめとする石川県の、まだまだ隠された素晴らしい魅力」を、「全国に改めて発信」し、「より一層の人を呼び込む」ことで、県内全域の振興を図る絶好のチャンスである。

このチャンスを活かすためには、金沢開業時に掲げた3つの柱を継承しつつ、まずは、南加賀地域を中心とする各地域の資源の発掘や磨き上げをしっかりと行う必要がある。

その上で、社会情勢の変化にきちんと対応しながら、様々な形で、国内外にその魅力を発信することで、「第二の開業」と呼ぶにふさわしい効果を生み出していくことが重要であり、このような観

点から、アクションプランを策定する

▼ 新幹線県内全線開業 PR 戦略実行プランの推進

新幹線県内全線開業 P R 戦略実行プラン



石川県観光戦略推進部誘客戦略課
新幹線県内全線開業PR推進室
令和5年3月

実行プランの策定方針

① 旅客誘客による効果も最大限にするためには、全県開業時の経験を活かして、旅客誘客の促進を図る。新たに小松駅、加賀温泉駅が新幹線駅として開業され、三大都市圏からの利用が期待される。北陸三県が1時間圏内でつながることによる相乗効果を最大限に引き出すための「新幹線開業を核とした誘客」が北陸三県連携による取組の重要なポイントとなる。本計画の策定は、文化資源を最大限活用して観光誘客につなげる「文化観光」を強力に推進していく必要がある。

② 旅客誘客に向け、こうした状況を盛り込む必要がある。

- ・コロナ禍で変化したニーズに対応した「受け地の魅力づくり」
- ・「県内周遊プロモーション」に合わせた「効果的な情報発信」
- ・「県内周遊プロモーション」に合わせた「誘客キャンペーン」

を柱とする「新幹線県内全線開業 P R 戦略実行プラン」を策定し、12月1日より開業効果の最大化に向けた具体的な施策を実施していく。

<取組イメージ>



▼ 誘客目標(目標年次:令和7(2025)年度)

県民生活との調和と観光客の満足度向上 ⇒ リピーター客・石川ファンの拡大	
全国から	3,000 万人(平成 27 年見込:2,500 万人)
3 大都市圏から	1,300 万人(平成 27 年見込:920 万人)
首都圏から	700 万人(平成 27 年見込:450 万人)
外国人宿泊者数	100 万人(平成 26 年実績:29 万人)

○実行プランの三本柱

1 受け地の魅力づくり

(1) コロナ禍で変化したニーズに対応した観光素材の発掘・磨き上げ、観光素材の発掘、旅行商品化への磨き上げ、旅行商品の販売促進、旅行商品販売(店舗+ネット)・個人誘客の促進

(2) 文化観光の推進

芸術、伝統芸能、伝統工芸、食文化、生活文化やふるさと文化など、本県の多彩な文化資源を最大限活用し、さらなる観光誘客を図るため、「文化の担い手」と「観光事業者」が連携し、本県が有する文化資源の価値の高さをわかりやすく伝え、本県への旅の満足度を高めることにより、文化の担い手と観光業界の双方の発展につなげる。

(3) 加賀・能登・金沢各地域での魅力づくり

開業効果の全県波及を図るため、加賀・能登・金沢が一体となった開業記念イベントを開催するとともに、県内全線開業前後の周年事業と連動したイベントを開催し、誘客を促進する。

(4) 新幹線新駅を核とした誘客

新たに開業する小松駅、加賀温泉駅を核とした、南加賀エリアへの誘客強化を図る。

(5) 広域周遊観光の促進(北陸三県連携)

北陸三県が1時間圏内でつながることによる相乗効果を最大限に引き出すため、北陸三県や周辺地域と連携し、周遊の仕掛けづくりと情報発信に取り組み、広域周遊観光の促進を図る。

(6) 県内全線開業の気運醸成とおもてなしの向上県内全線開業に向けて、延伸地域の加賀エリアをはじめとして、県内での開業気運の醸成を図るとともに、全県あげて、心溢れるお出迎えをするため、旅行者に対するおもてなしの向上を図る。

- (7) 「乗り換えの不便さを旅の楽しさに」変える仕掛けづくり関西・中京圏からは移動時間が短縮される一方で、敦賀駅で乗り換えが発生するというマイナスイメージを払拭するため、新幹線の快適性や車窓からの眺めなど、新幹線に乗ること自体の楽しみや新幹線から乗り継ぐ電車等に乗る楽しみをPRする。
- (8) 外国人向けの受入環境づくり
インバウンドの本格的な回復や、令和7年の大阪・関西万博を見据え、ターゲット市場のニーズに対応した情報発信を行うとともに、専門家を活用して、外国人のニーズを踏まえた観光コンテンツの充実を図り、長期滞在の促進や質を重視した誘客など、インバウンドによる経済効果の拡大を図る。

2 効果的な情報発信

- (1) マスメディアを活用した情報発信(北陸三県連携)
北陸新幹線の敦賀延伸に向け、首都圏等のメディアに対し、北陸三県共同により、季節毎に、食や歴史、文化、祭りなど旬の観光素材を紹介し、効果的にメディアへの露出の拡大を図る。
- (2) JRの開業プロモーションと連動した集中的な情報発信
- (3) デジタルマーケティングを活用した効果的な情報発信と施策の強化
人流データやSNSなどのビッグデータを活用したデジタルマーケティングを推進し、データに基づくターゲットの設定やメディア選定を行った上で、ターゲットに適したメディアでの情報発信を行うとともに、データ分析・活用による効果検証を行うことで、多様化する旅行者ニーズに応じて、きめ細かく効果的に本県の観光情報を発信する。
- (4) 大規模イベントへの出展(北陸三県等連携)
北陸三県等の連携により、首都圏や関西圏で開催される大規模イベントに出展し、県内全線開業と北陸の魅力をPRし、誘客を図る。
- (5) 三大都市圏の観光案内所等を核とした発信強化
北陸新幹線敦賀開業により、三大都市圏から本県への移動時間が短縮されることから、三大都市圏に設置している観光案内拠点施設等での発信を強化し、誘客の促進を図る。

3 誘客キャンペーン

- (1) JR連携による誘客キャンペーンの実施(北陸三県連携)
従来から実施している北陸三県とJR連携による通年キャンペーンや、令和6年秋の「北陸デスティネーションキャンペーン(北陸DC)」、さらには、令和7年の金沢開業10周年キャンペーンを実施していくことで、北陸への誘客促進を図る。
- (2) 大手旅行会社の全国的な誘客キャンペーンの実施(三県連携)
R7 年度実施 県内全線1周年 CP・金沢開業10周年 CP、
日本の美は、北陸にあり。キャンペーン、アフターDC、JBH

▼ その他支援制度の活用、検討

- ① いしかわの新たな観光スタイル開発支援事業
- ② 商店街にぎわい創事業補助金 他

□石川県観光連盟(R7 年度事業概要)

▼ 観光情報資料の作成・提供(27,340 千円)

- (1) 各種パンフレット・デジタル版パンフレットの作成
(まるごと観光マップ、ちょっと石川、もっと石川、ぐるっと石川など)
- (2) ホームページ「ほっと石川旅ねっと」の運営・発信力の強化

▼ 教育旅行の誘致推進 (5,000 千円)

- (1) 学生によるガイドプログラムの開発支援
- (2) モニターツアーの実施など受入れ態勢の強化

▼ 観光案内所の運営 (5,207 千円)

- (1) 能登の旅情報センターの運営

※石川県金沢観光情報センター、金沢中央観光案内所、首都圏アンテナショップ 観光案内カウンター、名古屋観光物産案内所については運営を受託

▼ 観光振興事業総務費(4,966 千円)

- (1) 観光地域づくりの推進

5 つの専門委員会の設置により観光石川の伸展に向けた意見等を集約し、県等に対し施策提案するとともに、行政や関係団体との連携強化を図る 取り組みなどを実施

- (2) 観光土産品の推奨

- (3) 観光功労者、優良観光従事者の表彰

- (4) 観光事業負担金

- (5) 旅館産業の育成

旅館産業等の育成等に取り組む団体などに対する助成

▼ ほっと石川キャンペーン事業(87,388 千円)

- (1) 観光 DX を活用したアンケートの実施 観光関連データを可視化し、業界全体で共有

- (2) 石川の観光情報を掲載したタブロイド誌を発行し、首都圏や東北、長野県等で配布

- (3) 観光物産展を活用した情報発信

- (4) 本県ゆかりの企業や映画等との連携による PR

- (5) 本県が舞台となった映画、アニメとの連携

- (6) 本県ゆかりの著名人や企業等との連携

▼ ようこそ加賀百万石の旅 JR 連携誘客キャンペーン事業 (8,001 千円)

- (1) JR と北陸三県連携による通年誘客キャンペーンの展開

▼ 加賀・能登・金沢の観光魅力アップ事業 (116,403 千円)

地域ならではの特別プログラムのモニターツアーによる魅力の磨き上げや誘客イベントの開催

▼ 観光石川魅力アップ事業(1,146 千円)

- (1) 加賀百万石ウォークの実施

観光ボランティアガイドの案内で県内各地の観光地を歩いて巡る加賀百万石ウォークの支援

□加賀温泉旅館等誘客促進事業実行委員会(予算事業規費 27,000 千円)

▼ 白山白川郷ホワイトロード宿泊者片道無料キャンペーンの実施

- (1) 実施期間 6 月 14 日～11 月 10 日(予定)

- (2) 事業費分担割 石川県:60%、加賀市:20%、参画旅館:10%、協会:10%

- (3) 情報発信事業 チラシ、ポスター、バナー、WEB サイト、SNS、雑誌、ツアー造成、旅行会社・交通事業者等への PR

□広域連携事業(南加賀エリアを中心にした)

▼ 小松空港協議会(石川県企画振興部空港企画課)

- (1) 目的 小松空港の観光客等の需要喚起・利用促進策として、協議会・福井県、航空会社等との連携による首都圏からの誘客促進を図る。

- (2) 地方創生に向けて東京(羽田空港)との連携(羽田未来総合研究所)

▼ 加賀地域連携推進会議・オール加賀会議との連携(事業費予算規模:46,983 千円)

(1)地域プロモーション(各種媒体を活用した効果的なPR)

(2)広域観光誘客魅力づくり

・加賀の国温泉協議会への助成 他

(3)その他 加賀の国グランキャブ(タクシー事業)の活用 他

▼ 加賀越前インバウンド推進機構

(1)機構が実施する「観光情報発信・誘客事業」との連携

□北陸観光協会・北陸広域観光推進協議会 等

▼ 北陸誘客促会議(JR3 社営業部長会議、7 月 14 日 於 美浜温泉ホテル湾彩)

▼ 冬の北陸美食フェア(11 月 28 日、於 Hメトロポリタンエドモンド) 他

□加賀市(産業振興部観光交流課)、(一社)加賀市観光交流機構との連携

▼ 「第4次加賀市観光戦略プラン」の策定に基づく、経済対策、観光戦略を意識した取組を推進する。(以下、新たなプラン策定における考え方(案))

○目指す到達点

観光入り込み客数…インバウンド観光客数の増加を見込みながら世界に認められる温泉観光都市として、加賀市観光の未来を見据えた夢のある数値を掲げます。

観光消費額……観光入り込み客数以上に数値を重視し、目標値を掲げ、稼げる観光都市を目指します。

○期間 2025(令和7)年度~2029(令和11)年度(5年間)

・短期間の成果に一喜一憂せず、一定期間で施策を推進します。

・加賀市商工観光振興審議会において、成果を1年ごとに検証し、都度改善しながら事業を展開します。

○戦略の方向性

1. 温泉観光都市としての魅力創出・向上

加賀温泉郷が育んできた温泉文化資源の魅力をさらに高めることで誘客の促進と満足度の向上を図ります。温泉宿泊施設はもとより、商店や飲食店、観光スポットなど、温泉地全体の魅力向上を図ります。また、周辺自治体と連携し、広域周遊における宿泊拠点として滞在機会の創出を推進します。

2. 自然・歴史・文化資源の観光活用

自然・歴史・伝統文化など豊かな地域資源を有効に活用し、来訪者が魅力を感じる観光地を目指します。そのため、資源の掘り起こしとストーリー化により魅力を磨き上げ、宿泊施設との連携による魅力的な体験型滞在メニューの企画造成など、新たな付加価値を生み出しながら観光商品化を図り、その魅力を国内外へ積極的に発信し、知名度・認知度を高めながら観光誘客に繋げます。

3. 情報発信強化と販売促進

首都圏からの誘客を重点的に推進するとともに、最も来訪が多い関西圏や中京圏などの各都市圏をはじめ、全国各地からの来訪促進に向けた戦略的な誘客施策を展開します。また旅行目的や旅行形態などの特性を的確に捉え、属性ごとにターゲットを行い、効果的な情報発信と誘客プロモーションを展開します。また、インターネットやSNSなどを活用しながら加賀温泉郷の魅力を広く発信し、話題性を高めます。旅行会社や交通事業者への販促活動により集客・誘客を促進するとともに、様々なメディアを通じて情報発信を活性化させ、官民が一体となり加賀温泉郷の知名度・認知度の向上を図ります。

4、北陸新幹線をはじめとする観光交通と連携した来訪促進

北陸新幹線加賀温泉駅が開業したことにより首都圏から加賀温泉郷へダイレクトに 来訪していただけることとなり、関西圏や中京圏からの旅行も敦賀駅での乗り換えが生じるものの早く近く快適な移動が提供されます。そのメリットを最大化させるプロモーションを展開します。また新幹線延伸開業という話題性とあわせ、飛行機、バス、自家用車等での来訪も促進させ、空陸両面での観光交通の充実をアピールしながら誘客促進を図ります。

5、インバウンド観光の推進

台湾やシンガポールなどの都市との交流を更に進め、関係を深化させながら誘客に繋がります。また、欧米豪など新たな海外都市からの誘客促進を特に強化します。防日外国人が大きく増加する中、その多くが滞在する東京・大阪・京都などの都市圏に加えて地方を観光したいというニーズを捉え、越前エリアや金沢・高山・白川郷等の近隣周辺地域との連携・連動しながら加賀温泉郷への誘客促進を図ります。温泉のほか、歴史や伝統文化、自然、食など様々な観光資源を活用し、外国人が行きたくなるような観光地を目指します。

6、観光消費額増加による持続可能な観光地経営

今後、インバウンド観光を更に強化する中で、外国人観光客をはじめ国内外からの来訪者の観光消費額を増額させるための施策を進めます。市内滞在における宿泊施設、飲食店や商店の施設やサービスの高付加価値化を図るとともに、城内回遊性向上による滞在時間の延長を図り、観光消費額の増加を目指します。また、観光DXを積極的に導入し、観光客へ洗練された利便性を提供するとともに、サービスの効率化・最適化を図ります。地域の稼ぐ力を育み、持続可能な観光地経営を推進します。

7、観光推進機能の充実

地域観光の推進においては、マーケティングやマネジメントに基づく「観光地経営」が重要であることから、観光地域づくり法人(日本版DMO)である一般社団法人加賀市観光交流機構が「加賀温泉郷DMO」として、加賀市の様々な産業を包括し地域運営を行えるよう、行政も支援しながら民間主導での運営体制を構築し、機能強化を図ります。効果的に観光施策を進めるため、デジタルを活用した観光客の動向に関する調査分析を実施し、マーケティング機能を高めます。有効な観光施策を継続的に実施するため、その財源確保の手法に関して検討を進めます。

▼ 助成金制度の運用

(1) 温泉地魅力創出・情報発信助成事業(プロモーション・コンテンツ事業部他)

・総合観光宣伝振興事業

・コロナ対策及びアフターコロナを見据えた事業

(2) 温泉地景観事業(景観保全管理)

▼ (一社)加賀市観光交流機構事業計画(案)

(1) 観光クーポン事業の実施(加賀温泉郷パスポート・ECO 乗りクーポン)

(2) 加賀市版ライドシェア事業

(3) 加賀温泉郷誘客促進事業(市補助事業:MICE 誘致促進、温泉地回遊性向上 他)

(4) 加賀温泉情報発信 PR 事業(市補助事業 他)

(5) インバウンド推進事業(市補助事業:WEB サイト、外国語パンフレット 他)

(6) 加賀温泉郷情報発信 PR 事業(市委託事業)

(7) インバウンド推進事業(市委託事業:インフルエンサー、ファムトリップ 他)

▼ 旅まちづくり加賀との連携

(1) キャンバス(CANBUS)を活用した南加賀地域の交流促進 他

▼ 加賀温泉郷協議会

(1) 温泉駅情報センターの運営(KAGA 旅まちネット内) 他

- (2) (一社)加賀市観光交流機構(集客マーケティング部会)と連携し、「加賀市 DMO 観光戦略ワークショップ」(5 月～1 月:計 9 回)、市民・観光事業若手向け意識啓発勉強会 座学(10 月～1 月:計 4 回)を開催し、観光振興プランを策定し、翌年度以降にアクションを起こしていくことを目指す。

・コーディネーター 地域活性化伝道師/well f.m.(一社)ファウンダー理事
善 井 靖 氏

▼ 加賀商工会議所関係

- (1)商工振興策、セミナー事業の周知活用、要望活動 他

□温泉地内エリアの各団体等との連携

- ▼ 温泉地内の各種団体間ネットワークの推進を更に進め、地域一体となって、情報共有化や地域総合力の充実化を目指し、来訪する訪問客の満足度向上による口コミ評価のアップ、リピータ客や長期滞在客の創出に努める。

また、外国人観光客等に対するユニバーサルな対応のできる街づくりを目指す。

- (1)山代温泉まちづくり推進協議会「拡大役員会」等

・明るく豊かなまちづくりと住民が安心して生活できる環境を整えるべく、地域一体となった地域の再生気運の醸成、推進を進める。

- (2)山代温泉商工振興会、各商店街等との連携

・空き家・空き店舗の再生活用に向け、各種支援制度の情報収集と地権者への共有、サポート支援を行う事によって、空き家再生事業の推進を図る。

年間通じて実施される各種祭り・イベントの文化的、歴史的背景、価値、今後の客ニーズ等も踏まえ、魅力向上に努める。

- (3)NPO 法人「はづちを」及び飲食店等

・山代温泉の強みの一つ飲食店(バー、スナックを含む。)の料理、サービスの質高さを切り口にした「食べ歩き、飲み歩き」が更に促進され、通り等の滞在時間の創出を図る。

又、湯の曲輪、古総湯と一体となった賑わいづくりの中核として、はづちを楽堂とも連携し、住民、旅行者にとって居心地の良い、通り界隈を作り上げていく。

- (4)九谷焼窯跡展示館、魯山人寓居跡いろは草庵との連携

・観光施設を管理運営する事業者との連携強化を図り、「山代温泉＝九谷焼」というイメージを抱き訪れる旅行者の期待に応えられるよう、各種取組みを進める。

吉田屋伝右衛門顕彰会の参加周知(12 月 15 日) 他

▼その他

- (1)県市協会が景観整備した温泉地景観整備・維持管理事業の維持管理

- (2)セミナー、人材育成等の推進

- (3)協賛・後援等事業の実施 他

3. プロモーション事業部

本年度山代温泉は開湯1300年を迎えました。この節目の年を意義ある一年にすべく、山代温泉らしい魅力を今一度見直し、今まで発信できていなかった魅力や新しい魅力を広く知って頂けるように情報発信をし、誘客に努めます。

WEBやSNS・メディア・OTAを含む旅行会社など様々なチャネルを活用し、北陸新幹線の延伸効果を最大限に取り込むべく沿線からの誘客や、増え続けるインバウンド客の取り込みを図ります。

◆メディア対策

- ・SNS対策 前年度に引き続き、SNS（Instagram・X）を活用したSNS展開を実施
- ・画像データベースの構築
山代温泉の魅力を発信のため、画像データのダウンロードシステムの構築を実施
- ・新聞広告等への広告出稿を見直し、適切な広告展開を行う。

◆インバウンド対策

- ・外国人インフルエンサーによる情報発信
観光地や伝統文化についてバランス良く投稿をしている、欧米と東南アジアのフォロワーが多いインフルエンサーを招聘し、山代温泉の最新情報を発信。
撮影した写真も提供してもらうことで、外国人向けの画像イメージの収集・整備も行う。
- ・外国人観光客向けメディアへの情報発信
ジャパンガイドへの記事掲載
FIT（個人旅行）向けで、最もアクセスが多くて定評あるコンテンツを発信している「ジャパンガイド」で山代温泉の紹介記事を掲載し誘客を図る。
トップページで紹介されることでホームページへのアクセスも増え、FITの宿泊予約増・来訪者増が期待できる。

◆ポスター・パンフ制作

- ・あいうえおマップの定期更新 春夏版（Vol. 12）4月更新
秋冬版（Vol. 11）9月更新予定
その他印刷物も適時増刷・更新を行う。

◆誘致対策

- ・OTA（じゃらんnet・楽天トラベル等）との連携による施策や旅行会社・行政等が展開するキャンペーンやPR事業と連携し誘客促進に努める。
第20回国内観光活性フォーラム（奈良県）
VISIT JAPAN トラベル&MICE マート 2025（愛知県）の出展を検討
- ・じゃらんnet 開湯1300年記念クーポン
じゃらんnetにて宿泊1300円クーポン・遊び体験700円クーポンの発行を実施（4～7月）
同時に関西・北陸地区のじゃらんnet会員へのメールマガジンを配信（4月）

◆その他

- ・開湯1300年を記念した宿泊プランの造成
開湯1300年を記念し、1300円分の商品券をつけた宿泊プランを展開し、宿泊客に山代温泉開湯1300年の周知に務める（5月～7月）
秋以降にミールクーポン付き宿泊プランの展開を実施する
- ・あいうえおの杜（8月オープン予定）の完成記念にあわせて幅広くあいうえおの郷のPR発信等を行う

4. コンテンツ事業部

山代温泉は開湯 1300 年という歴史的節目を迎えます。この記念すべき年にあたり、地域に根ざした伝統文化と現代的な魅力を融合させながら、温泉地としての新たな価値創出を図ります。

本年度は、山代温泉に新たな文化交流の拠点として（仮称）あいうえおの杜が誕生します。突如生まれたこの施設は、地域内外の人々が交差する新たな出会いの場として、今後のまちづくりの象徴とも言える存在です。

温泉地の歩く楽しさに着目し、「八十八ヶ所めぐり（薬王院温泉寺）」「（仮称）あいうえおの杜の遊歩道」「街なか散策」の要素を連動させた「山代まちめぐり回遊体験」を新たに構築してまいります。

地元商店街と協力し、観光客のまち歩きをさらに楽しませる仕掛けとして、新たに「デジタルクーポン事業」を展開いたします。スマートフォン上で簡単に利用できる本施策では、飲食店や土産物店、体験施設などとの連携を強化し、まちの消費回遊を促進します。

また、「あいうえお」を活用したオリジナル商品の開発にも取り組みます。

さらにプロモーション事業部と連携し、開湯 1300 年をテーマに国内外へ多面的な情報発信を展開します。動画や SNS、体験型コンテンツを活用し、歴史・食・温泉・人の魅力を一貫したストーリーで発信。多言語対応の強化や情報提供体制の整備を進め、インバウンド誘客の質的向上にも取り組みます。

この「記念の年」を未来への跳躍台と捉え、地域内外の連携を深めながら、歩いて深まる温泉地としての次なるステージを目指してまいります。

令和7年度（一社）山代温泉観光協会主催（関連）イベント予定一覧

イベント名	期間	時間	備考(会場他)
* 第26回山代大田楽	8/2(土)・8/3(日)	20:00～21:30	服部神社前特設会場(荒天時は加賀市文化会館 大ホールにて) 有料観覧席 全席指定400席(3,000円) 6月14日(土)より事務局窓口で販売
* やまし夏まつり	8/8(金)～17(日)	20:00～21:30	温泉通り(きんしん跡地)周辺
女生水地蔵尊まつり	8月24日(日)	午後～21時	【女生水商店会】 女生水周辺
(仮称)萬松園公園 あいうえおの杜 OPEN	8/30(土)～9/1(月)		8/30 オープニング式典(加賀市主催)、イベントなど 8/31、9/1 賑わいイベント開催(町内主催)
八朔祭りノ大獅子舞	9月1日(月)	終日	服部神社～町内全域
万松園まつり	9月1日(月)	午後～20時	【万松園商店街】【北大通り会】 万松園通り周辺(薬王院山門前)
エンジン01(ゼロワン)文化戦略会議 オープンカレッジin加賀	9/5(金)～9/7(日)		芸術、スポーツ、経済等の日本を代表する各分野の第一線で活躍する表現者・思考者達が加賀市に集結し、様々なテーマに沿った講座やイベントを3日間にわたり開催 https://www.city.kaga.ishikawa.jp/senryaku_tokku/about_us/News/13122.html
桔梗ヶ丘 夏まつり(仮)	9月7日(日)		【桔梗ヶ丘商店会】 桔梗ヶ丘広場
Yamashiro アートマーケット	9/27(土)・9/28(日)		【山代温泉通り商店街】温泉通り周辺 ※ フュージョンin KAGA との連携
あけぼのまつり(仮)	9月28日(日)		【あけぼの商店街】専光寺周辺 コンテンポラリーダンス、飲食やアートイベント
* やましろ カニまつり	11/16(日)	10:00～15:00	湯の曲輪周辺(予定)

* 印は（一社）山代温泉観光協会主催行事です。

6/6 現在の情報につき、変更の場合もあります